

小山町レッツ5食育プラン

レッツ5ファーム

マニュアル



小山町

小山町「レッツ5ファーム」マニュアル《目次》

- I はじめに
- II ねらい
- III 畑の確保
- IV 栽培野菜
- V 畑の先生
- VI 農作業スケジュール
 - 1 道具、作業着の確保
 - 2 土づくり
 - (1) 土壌診断
 - (2) 土起こし
 - (3) 耕す
 - (4) 肥料・堆肥
 - (5) 畝立て、マルチがけ
 - 3 種・苗の確保と植え付け
 - (1) 統一作物
 - (2) 植え付け当日の流れ
 - 4 畑の管理
 - (1) 水やり
 - (2) 草取り
 - (3) 追肥・土寄せ
 - (4) 病害虫予防
 - 5 収穫
 - 6 保存

《資料1》 里芋と大豆の北郷地方の基本的な栽培時期

《資料2》 菜園プラン（記入例）

《資料3》 レッツ5ファーム会話集

【別冊】

- 園別年度別菜園プラン
 - いきど保育園、すがぬま保育園、きたごう保育園、すばしり保育園
 - 駿河小山幼稚園、足柄幼稚園、北郷幼稚園（H26～きたごうこども園）、須走幼稚園
- 園別レッツ5ファーム実績一覧

I はじめに

5歳児食育プランは、心をこめて野菜を育てる「レッツ5ファーム」と料理教室「レッツ5キッチン」で構成する。育てた野菜を収穫し、実際に食材を料理し心から味わう等の体験を通して、食材のいのち、またその食材により生かされている自らのいのちを感じ、それによっていのちを尊ぶ心を養っていくことを期待する。

II ねらい

「レッツ5ファーム」は「心こめ野菜を育てる」農業体験であり、次のことをねらいとする。

- (1) 野菜を自分で育てあげる農業体験を通じて、子どもたちは知性と感性をバランスよく伸ばすことができる。農作業のそれぞれの段階で、なぜ、こうするのか、してはいけないのか、何か困難なことが起こったとき、失敗しそうなとき、どうすればいいのかを考える。
- (2) 生きもの同士のつながり、自然と人との関わり、自分とそれらの関係について気づきがある。自分たちが大切に育てた野菜を通して、子どもたちはいのちを尊ぶところを養っていくことができる。また、収穫の喜びなどを体験する。野菜を育てる作業は、収穫にだけ参加するのではなく、植え付けや水やり、草取りなどの一連の作業に参加することにより、野菜作りの苦勞も同じように体験する。普段何気なく食べていた野菜が、このように他の人々によって、大切に育てられたものだったことに気づく機会とする。
- (3) 普段関わることのなかった農業委員や農協、農林課の職員などとの交流を通して、人々に支えられている自分、社会の一員である自分という感覚を養うことができる。また、関係者に対する感謝の心を持ち、周りの大人とのつながりを感じる。子ども同士が育ち合い、子どもと大人が学びあい、子どもと地域の人々が交わる体験である。

Ⅲ 畑の確保

園毎に、園児が畑に行きやすくするために園になるべく近い場所を確保することが望ましい。

また、畑作業中の安全が確保されるような環境であることが必要である。

借地については、地主と園で場所や期限、借地料等の覚書を交わすことが望ましいが、畑づくりの始まる前に園から地主に理解と協力をお願いする。

食育関係者と共に地主との交流に配慮する。

現状（平成 22 年度当初）

	畑	耕作面積（全園児 1 人当り）
いきど保育園	徒歩数分（町有地）	84 m ² （ 2.3 m ² /人）
すがぬま保育園	園の道向かい（借地）	66 m ² （ 1.1 m ² /人）
きたごう保育園	園の道向かい（借地）	105 m ² （ 1.5 m ² /人）
すばしり保育園	徒歩数分（借地）	63 m ² （ 1.5 m ² /人）
駿河小山幼稚園	徒歩 20 分（収穫体験のみ） プランター（里いも・大豆）	野菜づくり畑としては、0m ² ≪ 40 m ² （ 0.8 m ² /人） ≫
足柄幼稚園	園隣接地（町有地）	20 m ² （ 0.7 m ² /人）
北郷幼稚園	徒歩数分（借地）	140 m ² （ 1.9 m ² /人）
須走幼稚園	園庭内（町有地）	36 m ² （ 0.2 m ² /人）
（年少～年長） 512 人	町有地 3 か所 借地 4 か所 無 1 か所	514 m ² （ 1.0 m ² /人） 1 園当たり 64 m ²

※駿河小山幼稚園については、今後、園の近所で畑を探していく。

Ⅳ 栽培野菜

- (1) 各園の状況に応じて、通常の園活動の一環として夏野菜づくり等に取り組む。
- (2) 身近で野菜の成長を観察できるよう、同時に園庭内やプランター栽培を行うなどの工夫をする。
- (3) 料理教室に向けた野菜作りは、秋の収穫に合わせて当面、大豆と里いもを統一作物として育てる。その後は、関係者で話し合っ決めて。
- (4) 町の風土や気候に合った作物について学ぶ。

Ⅴ 畑の先生

農業委員や J A 御殿場職員、地元の農業者等を畑の先生として、園児や園の野菜づくり全般の支援をお願いする。

特に農業委員には、担当する園を決めて、日常的な畑の見守りや相談役をお願いする。

VI 農作業スケジュール

畑の先生の協力可能な時期を調整しながら、小山町の気候にあった農作業スケジュールを組む。年間のスケジュール概要は、『別表』のとおり。

1 道具、作業着の準備

⇒「菜園スタートBOOK（春夏編）」14～24 ページ参照

- (1) 園が用意する道具
くわ、草刈カマ、小バケツ、移植ゴテ、巻尺、支柱、ひも類
マルチ（ロールタイプ、穴無し） 各適量
- (2) 子どもが用意する道具
ペットボトルのジョウロ
- (3) 畑の先生に借用する道具
ミニ耕耘機 1台
- (4) 作業着
長靴、長袖と長ズボン、帽子、軍手やゴム手袋
- (5) 飲物
夏の作業には、各自水筒やペットボトルで水分補給しながら行う

2 土づくり

⇒「菜園スタートBOOK（春夏編）」12～13、40～43 ページ参照

- (1) 土壌診断
⇒「菜園スタートBOOK（春夏編）」13、40 ページ参照

よい土であるほど、野菜は美味しくなり、収穫量も上がるものなので、春先に水はけや土の酸度をチェックするとよい。

- (2) 土起こし・耕す
⇒「菜園スタートBOOK（春夏編）」40～41 ページ参照

種まきや苗付けの2週間前までには、マルチや小石の排除や草取りをし、ミニ耕耘機やトラクター等を使って土起こしをする。

その時に、苦土石灰（1㎡当たり100～200g）をまいておくとよい。

アルカリ性の苦土石灰は、酸性に傾きがちな土を中和し、光合成に重要な働きをする苦土（マグネシウム）を含んでいる。

～～～ 子どもへの説明（例） ～～～

土は、種や苗がおいしくて栄養たっぷりの野菜に育つためのお家です。

皆さんもお家では、おいしい栄養のあるご飯やふかふかで気持ちの良いお布団があったら、とても幸せな気持ちになりますよね。

きっと、野菜の栄養になる肥料や堆肥が入っていて、ふかふかした土だったら、野菜の赤ちゃんもすくすく育つと思いませんか？

土づくりは大変だけど、野菜を育てるための大切なお仕事です。

(3) 肥料・堆肥

⇒「菜園スタートBOOK（春夏編）」42～43ページ参照

(めやす)

肥料：有機肥料（1㎡当たり〇〇kg、耕作面積に対し〇〇袋）

堆肥：完熟牛ふん堆肥（1㎡当たり〇〇kg、耕作面積に対し〇〇袋）

	畑の 耕作面積	プラン ター等	苦土石灰 1㎡当100g	有機肥料	堆肥
いきど保育園	84㎡	○	8.4kg	2袋	2袋
すがぬま保育園	66㎡	○	6.6kg	2袋	2袋
きたごう保育園	105㎡	○	10.5kg	2袋	2袋
すばしり保育園	63㎡	○	6.3kg	2袋	2袋
駿河小山幼稚園	0㎡	○	—	1袋	1袋
足柄幼稚園	20㎡	○	2.0kg	1袋	1袋
北郷幼稚園	140㎡	○	14.0kg	2袋	2袋
須走幼稚園	36㎡	○	3.6kg	1袋	1袋
全園合計	514㎡		51.4kg	13袋	13袋

(4) 畝立て、マルチがけ

⇒「菜園スタートBOOK（春夏編）」44～46ページ参照

3 種・苗の確保と植え付け

(1) 統一作物

平成21年度から平成23年度の3年間は、里いもと大豆を統一作物とするが、その後は、園や食育関係者等が協議してレッツ5キッチンに使えるような統一作物を決める。

植え付けの日には、畑の先生から土づくりや野菜づくりの苦労や楽しみなどの体験談や農業に関する知恵を子ども達に話したりして交流をもつ。

また、レッツ5ファームの統一作物の他に、通常の園活動の一環として既に行っている園庭内やプランターでの夏野菜の栽培は、園児にとってより身近な場所で、日々目に触れながら野菜の成長を観察できるため、農業委員やJA 御殿場指導員等、畑の先生による相談ができる体制を整える。

各園の当年度の菜園プランは、連作障害を防ぐため「資料1」を例にして、作成すると共に次年度以降の参考にする。

⇒「菜園スタートBOOK（春夏編）」31～35 ページ参照

【里いも】

⇒「菜園スタートBOOK（春夏編）」70～71 ページ参照

【大豆・枝豆】

⇒「菜園スタートBOOK（春夏編）」101～103 ページ参照

(2) 植え付け当日の流れ

各園で、植え付け日を担当の畑の先生（農業委員等）と調整して決める。

健康増進課や農林課ができる限り支援する他、保護者も参加できる方には、協力してもらうようお願いする。

（基本形）	内 容	調整事項
前日まで	種や苗の確保	ミニ耕耘機の借用
	畑の草取りなど、畑の下準備	
	保護者や園児への持ち物等連絡	
当日 9:30 まで	種や苗・農具・肥料等の準備	
	支援者の参加確認	
	農作業の身支度	
9:30～ ～10:30	畑集合	
	1. あいさつ （子どもと畑の先生等支援者との交流の意義）	園進行
	2. 畑の先生や支援者の紹介	支援者4名程度
	3. 畑の先生から手順の説明	
	4. 作業開始 作業しながら実技指導	作業中は随時水分補給する
	土作りや畝立て	
	植え付け （1人里いも1個と大豆2粒）	
	5. 作業終了	
	6. あいさつ （園児からのお礼のあいさつ 支援者からの総括的あいさつ）	

4 畑の管理

(1) 水やり

日々の水やりは、園の管理の下で、園児が積極的に作業できるよう促す。
梅雨明け後から夏の間は、乾燥に弱いので、株元にたっぷり与える。

(2) 草取り

保護者には、園行事に併せて協力をお願いするなどして、レッツ 5 食育事業への理解とバックアップを呼びかける。

(3) 追肥・土寄せ

園は、園児とともに作物の成長の様子を見ながら、農作業の知恵、畑の様子、気候等の自然にも目を向ける事ができるよう、畑の先生の助言・指導を受けて必要に応じ追肥や土寄せを行う。

里いもの追肥は、植付けから 2 か月後、草丈が 15 cm ほどになってから株の周りに施し、周囲の土を株元の肥料の上に寄せる。以降約 1 か月に 1 回行う。

大豆の追肥は、開花時期に行う。

(4) 病虫害予防

里いもの場合、害虫は、アブラムシに注意し、病気は、黒斑病に注意する。

大豆の場合、種を直蒔きするときは、鳥害対策をし、花の咲くころにはカメムシ対策を行う。

5 収穫

各園で、植え付け日を担当の畑の先生（農業委員等）と調整して決める。

保護者も参加できる方には、協力してもらうようお願いする。

収穫時期は、およそ 10 月中旬から 11 月中旬で、初霜の直前が収穫の適期である。

まず、葉の柄の部分を取り取り、株元から 15 cm はなれたところにスコップをさし、掘り上げる。土を落としながら親いもと子いもを分ける。

大豆は、10 月下旬に、葉と葉柄がすっかり落ち、サヤを振るとカラカラ音がしたら収穫する。

6 保存

掘りあげたいもは、寒さにあうと傷むので、土中や室内に保存する。

大豆は、15%まで乾燥する。（収穫時に重量を測っておくと良い）

《資料1》 里いもと大豆の北駿地方の基本的な栽培時期

	月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
里いも	作型										
	主要作業	土起こし	催芽	◎定植 元肥	マルチ除去	▽追肥	土寄せ	土寄せ		□収穫	
大豆	作型										
	主要作業	土起こし			○は種 整地	◇中耕・倍土	◇中耕・倍土 害虫対策			□収穫	

「北駿営農のしおり」参考

≪資料2≫ 菜園プラン（記入例）

平成 年度 ○○園

(1) 作付け野菜

- ① 里芋 20個
- ② 大豆 2粒×40か所
- ③ さつまいも 25本
- ④ ミニトマト 5本
- ⑤ ナス 5本

(2) 大きさ 10m×6m=60㎡

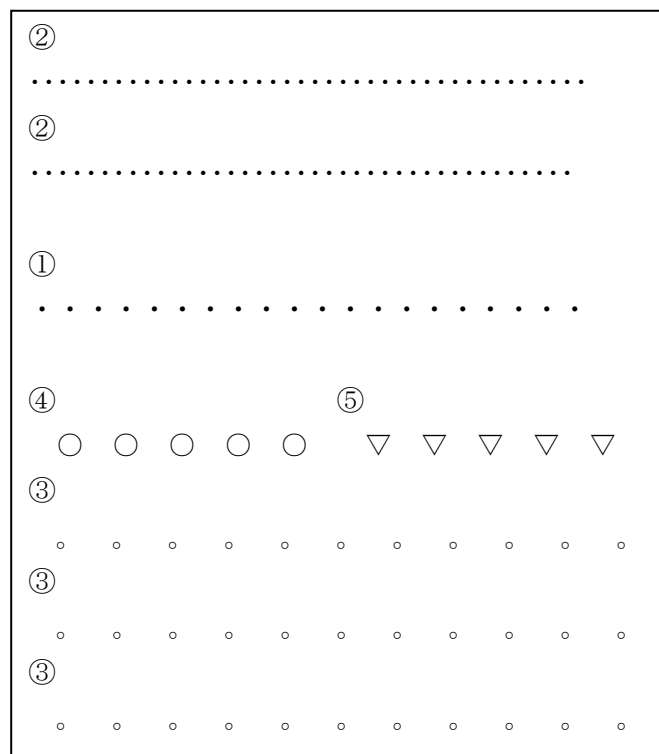
(3) 周囲の様子

園舎

方角 ↑北

林

道路



畑

《資料3》

平成22年度『レッツ5ファーム会話集』

「夏野菜のプランターへの植えつけ」場面より

(先生)「大きくなるために必要なものは何かな。」

(子ども)「水。」

「肥料。」

「太陽。」

「土。」

(先生)「赤玉土をさわってみてどうかな。」

(子ども)「ころころ石みたい。」

「煙がでた。」

「うさぎのうんちみたい。」

「石じゃないから割れた。」

(先生)「プランター培養土をさわってみてどうかな。」

(子ども)「かぶと虫の土みたい。」

「かぶと虫の砂のにおい。」

「やわらかい。」

「砂場の土よりやわらかい。」

「みみずが出てこないのかな。」

(子ども)「楽しみ。」

「根っこの形が(ポットに)ぴったり。」

「おうちの土よりやわらかい。」

「あたたかい。」

「さらさら。」

「根っこみたいのが入っている。」

(子ども)「手が金色になったのはどうして。」

(農協)「カーライトという成分が入っているためです。お米のもみがらも入ってま
す。」

(農協)「プランターに8分目まで土を入れてください。」

(子ども)「8分目ってどのくらい?」

(農協)「プランターの上から、指3本分下まで 土を入れましょう。これならわか
りますね。」

(先生)「みんなのパワーが入るからおいしくなるよ。」

(子ども)「おいしくなーれ。おいしくなーれ。」

(農協)「トマトの苗のにおいをかいでみましょう。」

(子ども)「苗から甘いにおいがする。」

「トマトが無いのに、トマトのにおいがする」

(農協)「あまり苗に触りすぎないように。トマトも不機嫌になります。」

(農協)「ぎゅっとすると苦くなるからやさしく、そっと取り扱ってね。」

「ポットの中で、こんなに根がはえているよ。」

(農協)「苗を植える部分の穴をほってみましょう。」

「真ん中に植えます。まわりに根がのびるためです。」

(農協)「掘った穴に苗を入れて土をかぶせて下さい。」

「土がかぶった茎からは、根が出てくるので深く植えなくていいよ。」

「トマトは黄色の花が咲きます。トマトの実は緑から赤くなります。」

根がどんどんはって伸びてくるので支柱を立てます。茎と支柱を、すずらんテープを8の字にしてしばります。どんどん太くなるのでゆるめにしておきます。」

(先生)「支柱ってわかる？ささえる棒のことだよ。」

(子ども)「シチュー、シチュー(食べ物の)」

「朝顔みたいに上に伸びるんだよね。」

「風でたおれないようにするの。」

「ポキッと折れちゃうから。」

(農協)「上手に育てるとすごく伸びます。朝日のあたる所が育ちます。みんなも早起きして朝日にあたるほうが健康になるんだよ。」

「トマトは、屋根がついていて、お日様が当たる所で、雨があまりかからない所に置いて下さい。」

(子ども)「虫に野菜の葉っぱを食べられたら？」

(農協)「人間が食べるから虫もおいしいよね。食べられる前に虫を見つけて取って下さい。」

「大豆・里いも・さつまいもの畑作り」の場面より

(農業委員)「畑は、植える 2 週間前に牛ふん、たい肥、腐葉土など混ぜて置いたほうがよかったな。」

(先生)「今日は何を植えるのかな。」

(子ども)「さつまいも、トマト、ピーマン。」

(先生)「大豆と里いもだけど、わかるかな？」

(子ども)「食べてるよ」

「焼くとふっかふか。」

「みそ汁にはいっている白いもの。」

(農協)「トラクターがなかった時は馬や牛がくわを引いていたんだよ。」

「根っこが大きくなるために土をやわらかくしています。」

「今から、美味しい里いもや大豆が育つように、気持ちのいい暖かいお家とフカフカの土のお布団、そして栄養のあるご飯を用意します。」

(子ども)「土がとびはねている。」

「エンジンがあたたかい。」

「(羽みたいのをつけたので)パワーアップした。」

(先生)「お山ができたところは土がフカフカなのです。」

腐葉土・牛ふん・肥料をまく

(子ども)「かぶと虫のうんちみたい。」

(先生)「牛ふんをさわって、どうかな？」

(子ども)「やわらかい。」

「臭くない。」

「うんちのにおい。」

「野菜を大きくなるための栄養になる。」

「草のにおい。」

「牛は草を食べているから。」

(農協)「お野菜の肥料をまきます。パラパラとまきます。」

(農協)「牛ふんをさわってみてどうかな。」

(子ども)「みんなのうんちと比べて臭くない。」

「こんなに汚れた。」

(農協)「でも牛ふんもとりたては臭いので、しばらくおいておくとうんちが腐ります。わらも畑の栄養です。」

里芋を植える

(先生)「給食のおみそ汁とかにねばねばした白いのです。葉っぱが大きくなるんだって。」

(先生)「芽が出ると大きな葉っぱができます。トトロのカサになります。」

(子ども)「トトロ、トトロ。」トトロの歌を歌う

(農協)「これ何かが出ています。」

(子ども)「芽。」

(農協)「里芋のお母さんです。子どもがいっぱい出てきます。芽はまっすぐに
ささないで、斜めにおきます。」

「土をかぶせます。押えつけないように。」

(子ども)「土が柔らかいね。」

「大きくなーれ、大きくなーれ。」

(子ども)「手が汚れて疲れた。」

(先生)「畑仕事をする時は真っ黒になっていいんだよ。」

(子ども)「幼虫をみつけた！」

(先生)「何の幼虫だろうね。」

(先生)「ふわっとお布団をかけて下さい。トントンはやらないよ。仕上げは畑
の先生にやってもらいます。」

「里芋のお母さんが土のベットに入ります。赤ちゃんがいっぱいできますよ
うに。」

(農協)「もっといいお布団をかけます。黒いビニールをマルチといいます。」

「暖かくて、お野菜を守る大切なビニールです。」

(子ども)「(かける様子を見て)すごい、はやい。」

「波みたい。」

(農協)「2週間たったら芽がでてくるのでビニールをやぶって下さい。」

大豆をまく

(先生)「これなーんだ。白くてコロコロしてるよね。夏に食べるとおいしいも
の。鬼は外、福は内でもやったよね。」

(子ども)「枝まめ。」

「豆まきのまめ」

(子ども)「何で2粒ずつ蒔くの？」

(農協)「1 つではできる量が決まっています。いっぱい同じ穴に蒔くと育った時に
狭くなります。2粒くらいがちようどいいかな。」

(子ども)「お米のつぶより大きいね。」

(先生)「みんなが植えた野菜明日にはできると思う人？」

子ども数人が手をあげる

「6月にできると思う人。」

子ども数人が手をあげる

「夏休みにできると思う人。」

子ども数人が手をあげる

「みんなでいつ食べられるか見に来ようね。」

(先生)「できました。このまま、ほったらかしでいいのかな。」

(子ども)「水をやりに来る。」

「草を取りに来る。」

(先生)「お世話をしないと食べられませんね。畑にまた来ようね。」